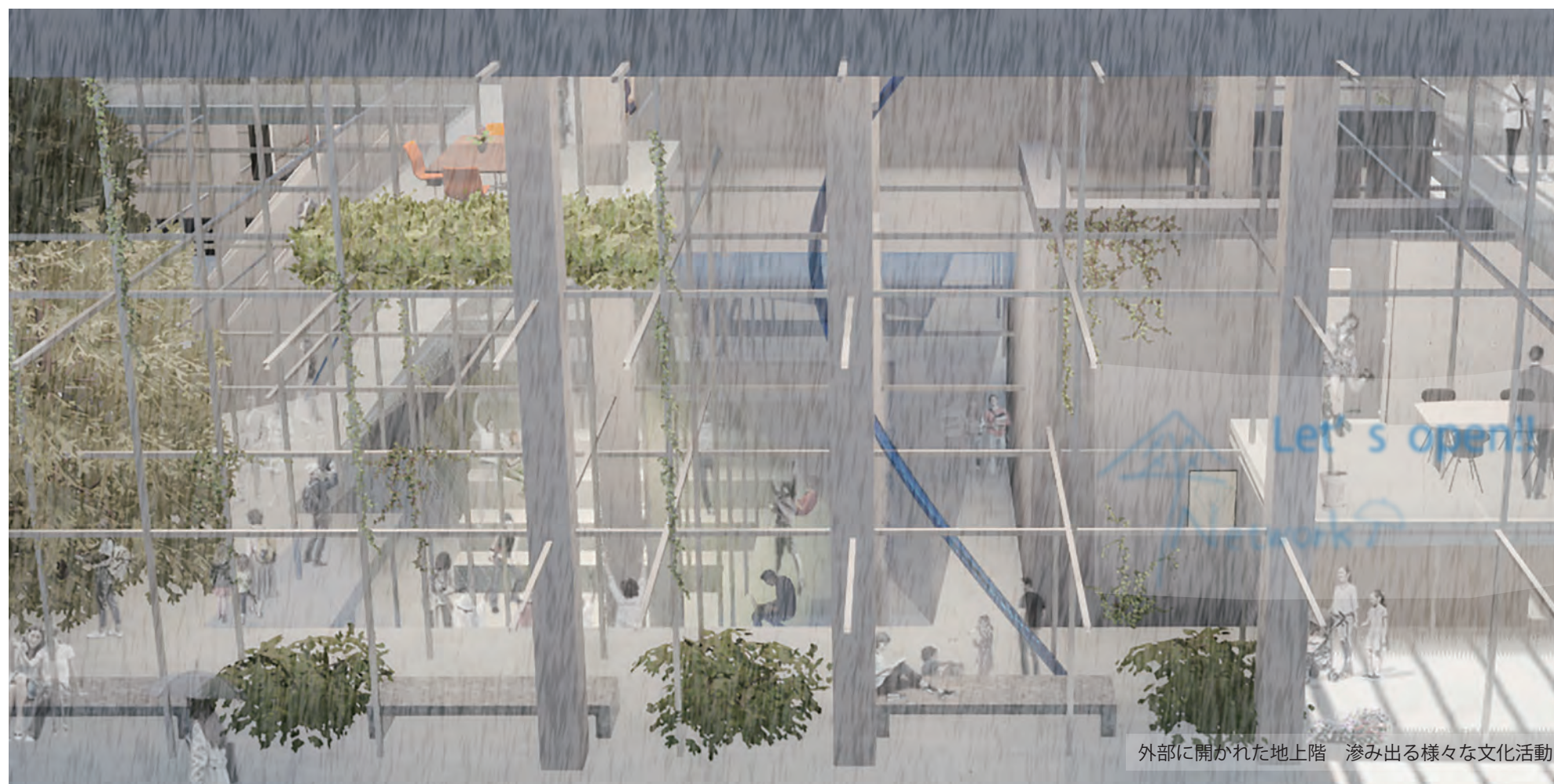
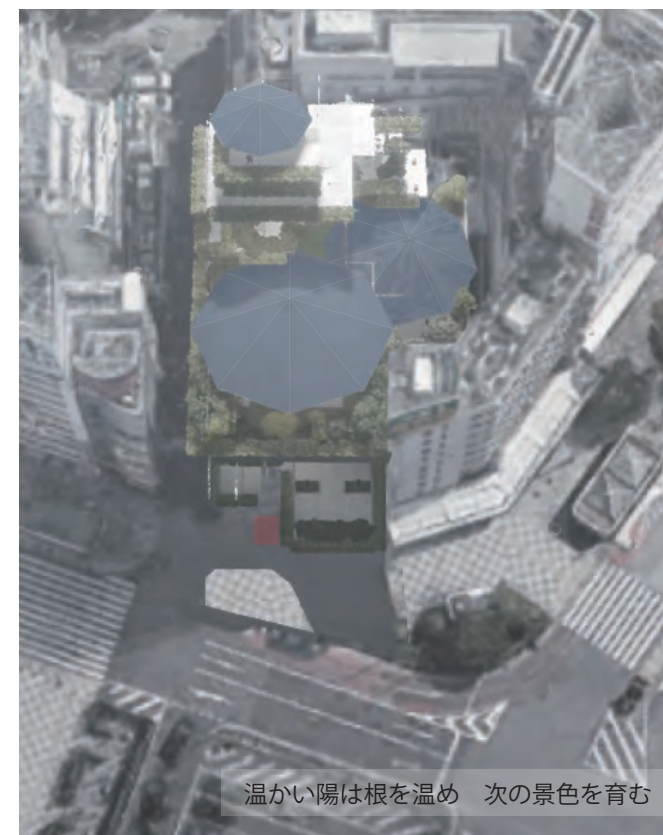
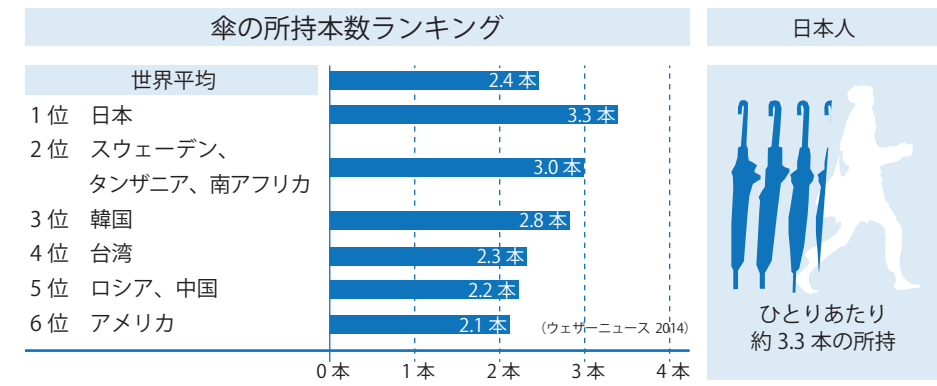




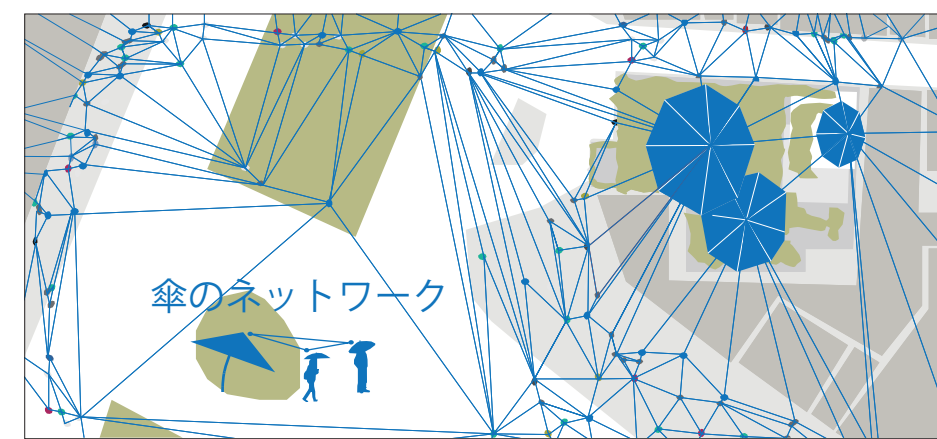
01 文化とまちを
接続させるファクター 「傘」

日本には、何百年、あるいは何千年も前から、雨をしのぐ方法として、「傘」を用いてきました。多様な技術の発展とともに、生活がめまぐるしく更新されている今日でも、我々は変わらず、傘を持って雨をしのぎ続けています。雨のたけき合い方は、国によって様々ですが、ウェザーニューズの調べ（2014）では、日本の傘所持者数は世界一と発表されています。日本人の「雨のたけき合い方」を、アートカルチャーに転換し、建築・まちと接続させる新しい文化国際都市の建築を提案します。



02 すべての人が
主役になれる日 「雨」

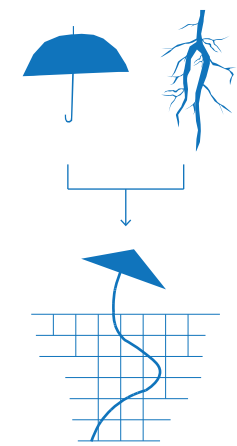
「傘をさして歩く」という全ての人に平等に与えられた行為をアートカルチャーへと転換し、建築の機能、かたちと接続させます。傘をさす全ての人がアートカルチャーのアイコンとなり、建築と共に大きなネットワークを作ります。一人一人が主役であり、主役の個性が、まちを、建築を彩ります。



03 傘の根はどこへ

“傘の根”の仕事

- ① 多様な芸術、文化、ひとを、
一連のアートカルチャーとしてつなぐ
- ② アートカルチャーの象徴のひとつとして、
“傘”をまちと接続させる
- ③ 世界を魅了する豊かさを、
点の集合から、面的な広がりへ拡張する



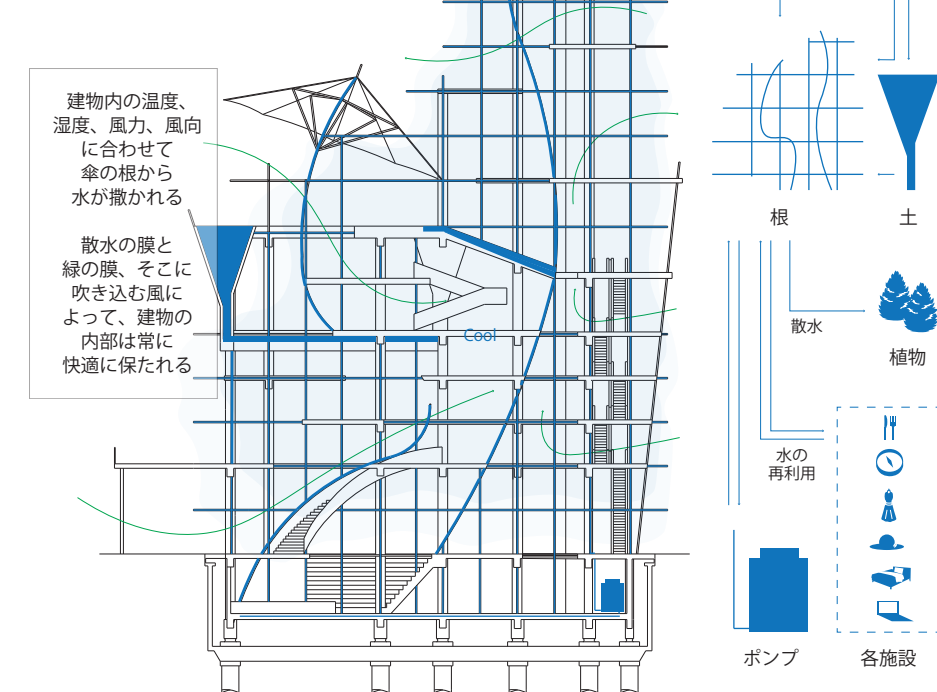
04 カササブスク

傘の大量消費をなくし、循環型社会の実現に寄与する。そのため、人々が傘を共有するための、「**傘共有システム**」を提案する。雨天時、傘を持たずに建物を出る人は各所に設けられた「カサステーション」から傘を借り、雨を凌ぐ。借りた傘は、自由なタイミングで「カサステーション」に返すことができる。システムは会員制とする。そのため、借用にによる責任が伴う。「カササブス」のサービスにより、**無駄な傘の消費が抑えられる**。

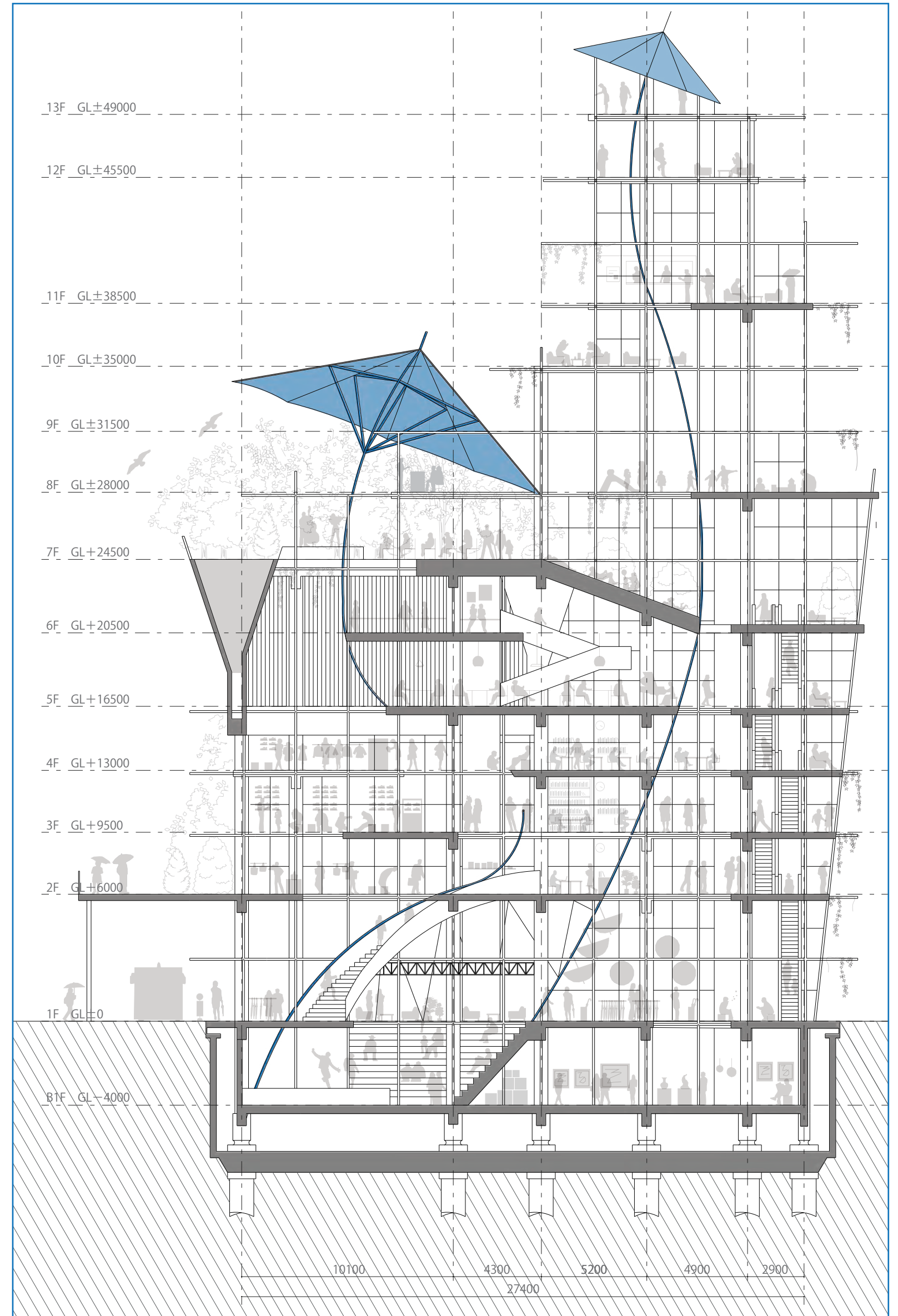


05 根を伝い水したたる庭

傘から滴る水は、“根”に吸収され、建物内を循環する。“根”は、文化・芸術、そして環境を豊かにする。



Section S=1/200



06 雨にも前向きな都市 AMENIWA 事業スキーム

「雨の日の野外活動を快適に行える」 「アートカルチャーをより身近に享受できる」

上記2つのピースを埋めることで、泡袋を新しい文化国際都市として躍進させる。雨庭を中心とした雨都市計画が、必要なピースをかたち作る。

